



带状疱疹予防接種の助成と
市内交通網の利便性向上

細谷 美恵子（発言と行動する会）

問 带状疱疹は、50歳以上で急増、80歳までに約3人に1人が罹患するといわれる。その10〜50%が重症化し带状疱疹後神経痛に悩まされるといふ。予防接種はすでに認可されているが、自己負担の任意接種であり費用は高額である。他の自治体や企業ではすでに助成を行っているところもあるが、本市の方針はあるか。

答 定期接種化に向けた国の審議会の動向を注視している。

問 予防接種としては生ワクチンと不活化ワクチンが承認されている。接種を受けるかどうかは個人の判断によるが、情報だけでも周知できないか。

答 带状疱疹や予防接種の周知は検討したい。

問 交通網の利便性向上

問 市内循環バスの増便や運行時間の延長を検討すべきではないか。

答 運行時間の見直しが必要な場合には、利用実態とアンケート調査を実施し、総合的に判断する。

問 デマンドタクシーの利用時間の拡大はどうか。

答 利用者の多くが75歳以上の高齢者のため、医療機関の診療時間等も勘案し、午前8時30分〜午後5時で設定している。

問 循環バスの運行が減る午後5時以降でも、医療機関等は開いている。

答 デマンドタクシーまで午後5時終了では利用者には不便である。時間を延長できない理由はなにか。

問 利用者の意見やタクシー事業者との合意を今後の検討課題としたい。

問 自動車免許の返納を考える人に、動機付けとして75歳未満であってもデマンドタクシーを利用できるように図れないか。

答 財政面を含めて、判断していく。



子育て世帯支援について

福島 ともお（新政策研究会）

問 子育て世帯定住促進奨励金について復活する可能性はあるのか。

答 平成25年度から実施してきたが、制度開始以来6年が経過し、同様の制度を設ける市町村が増加傾向にあったこと、また、利用者アンケートの結果、本奨励金が、必ずしも財政負担に見合うインセンティブになっていないことから、令和2年9月末をもって廃止した。復活は予定していない。

問 子育て出産奨励金もしくは子育て支援金について支給する可能性はあるのか。また、浮き城のまち・子育てジョイ・ハッピー事業を第1子、第2子まで対象を拡大する可能性はあるのか。

答 現在、本市独自の子育て世帯を支援する給付事業として、第3子以降の児童の誕生をお祝いし、まちの活性化を図るため、

市内の協賛店舗で使用可能な1万8千円相当の商品券を贈呈する行田市浮き城のまち・子育てジョイ・ハッピー事業を実施している。現状では、本事業における対象児童の拡大や出産祝い金などの新たな給付事業を実施する予定はないが、他自治体の給付事業などについて調査研究していく。

その他の主な質問

- 地域公共交通について
- スクールバスについて
- 言な絶えそねー行田創生RPGIについて
- 危険ブロック塀について



浮き城のまち・子育てジョイ・ハッピー事業協賛店ステッカー



「流域治水」
田んぼダムについて

高澤 克芳（みらい）

問 洪水防止のため市民ができる最良の方法は、田んぼダムであると思うが市の認識や意見を聞いた新潟大学の教授の認識、その周知方法、反応、現在の進捗状況及び問題点はどのようだったものか。

答 田んぼダムは、田んぼがもともと持っている水をためる機能を利用し、洪水被害を軽減する取組である。一時的に田んぼに水をため排水路等に時間をかけてゆっくり流すことで、水路、河川から水があふれるのを防ぐもので、治水対策における有効な手段の一つであると認識している。また、田んぼダム事業の第一人者である新潟大学農学部教授に来てもらい、講習、現地調査を行った。その際、田んぼダムの治水効果について、シミュレーションにより検証する方法があるとの助言をもらったことから本年度新潟大学と連携し、田んぼダム事業の治水効果、解析等の調査を予定している。周知方法については、令和2年7月に市内17の多面的活動組織の代表者宅を訪問し、田んぼダムの概要の説明と併せて取組の依頼を行ったところ、各代表からは一定の評価を得られたものと認識している。

なお、本年度新たな方式で田んぼダム事業に着手するに当たり、対象地区の多面的機能活動組織をはじめ各関係者に説明し、地元地権者、耕作者を対象とした説明会を予定している。進捗状況は、幸いにも台風降水量が少なく田んぼダムの雨水貯留には至っていない。課題は実施地域の下流域には恩恵があるが、事業の協力者にはメリットがないことである。